

飲食でも充たされぬ
子どもの心

十二月の声を聞くとなんとなく
気ぜわしさを感ずります。この一年
都留市においては、青少年の育成
にかかわって、大きな問題もなく
経過したことは、大変喜ばしいこ
とだと思えます。

しかしなんといつても記憶に新
しいショッキングな事件として、
神戸市に起きた小学生連続殺傷事
件だったと思えます。十五歳の中
学生が、あんな大それたことを、
想像するのも重苦しい感じがする
わけですが、現実の問題として起
きたのは事実ですし、特異な人間
が起こした特異な事件として片付
けてよいものだろうか。よそごと
としてはとても考えられません。
少年の身柄を「医療少年院送致」
と決断したわけですが、なんとも
言いようのない暗い気持ちになり
ます。

ところで審判後に少年の両親の
心境が発表され『これほど根が深
いとは思ってもおりませんでした。
なぜ少しでも気付かなかったのか、
それが悔やまれてなりません。親
として子どもへの接し方が間違っ
ていたのではないか・・・』
やり場のない気持ちを訴えてい
るわけですが、このような重大事
件に関して、この少年に対してな
んらかの手をさしのべる機会はな
かったのか、それはどのような場

面をとらえるべきだったのか、後
の祭りになります。少年は学校
では心を開かず、友達と遊ぶこと
もなく一人遊びをしていた。また
自宅では自分の部屋に閉じこもり
昼間からカーテンを引いて薄暗く
し、雨の日を好んでいた。これら
のことは周知から何らかの手を差
し延べられたい、本人からの信号
だったのかもしれない。学校の
対応も色々と批判はありますが、
親は日常生活のなかで子どもから
の信号を適切に捉えるゆとりと心



の準備が必要になってくるのでは
ないでしょうか。

改めて問い直される家族の役割
の中で、従来から存在感の薄い父
親像が指摘されておりますが、こ
と子どもの教育に関する部分につ
いては、なおさらのことです。そ
れに対して母親は、教育、しつけ、
育児全部の問題がかかわってまい
ります。

近年地域社会の教育力の低下、
崩壊ということが問題になります
が、今回の事件の場合、存在感の
非常に強い母親像と非常に希薄な

父親像が家庭の大きな特色だと言
われております。暮らしが楽にな
って家庭の機能として、最後に残
るのは子どもを社会化させる機能
だといえます。それは他では代替
えのできない、お父さん出番です
よ、ということが叫ばれますが、
家族の関係を正常に戻すためには、
何といても、戦後働きバチと言
われ、高度経済成長を支えたお父
さんを家庭や地域に返すことです。
一般的には子どもが問題を起す
原因は、その子どもを取り巻く社
会環境、学校における教育、家庭
両親に問題があるのであって、実
は子どもはその被害者なのだ、と
いう見方があります。飽食でも充
たされぬ子どもの心を、社会全体
の力で支え、育んでいくよう考え
たいものです。

さて、このような事件の再発防
止に対して、子どもとして人間と
して命を大切にしたり、他者への
思いやりを持つとか、人を傷つけ
たり殺してはいけないという、ご
く当たり前に人間として持つべき
倫理観を、どうしたら一人ひとり
の青少年の心に育むことができる
か、心の教育を充実、強化してい
きたいと述べておりますが、この
ことは文部大臣の発言というより
社会全体にかかわるすべての人の
願いであります。

この事件をもとに、もう一度お
互いの子育てについて考える機会
にしたいものです。

ほくが、わたしがチャンピオン
チャレラン大会が開催されました

遊びをとおして子どもたちのコミュニケーションの輪を広げようと、11月16日の日曜日、チャレラン大会が市民総合体育館で行われました。空き缶積み競争や、紙ちぎりのぼし、ぞうきんがけ20メートル走などユニークな12の種目に訪れた100人余りの子どもたちはチャレンジしました。

なお、各種目の最高記録は次のとおりです。



各種目チャンピオン (敬称略)		
豆つまみ皿うつし	安田みわ (小5)	59個
かさバランス	日向里菜 (小4)	33秒22
空き缶積み	山中健 (小3) 齊藤麻衣 (小4)	10個
1分間紙ちぎりのぼし	小俣友美 (小3)	217cm
ぞうきんがけ20m走	根本陽平 (小3)	5秒4
片足立ち	日向絢乃 (小3)	2分21秒6
1分間ドリブル	西川文菜 (小4)	182回
ピンポン玉遠投	山中健 (小3)	14m9cm
1分間じゃんけん	井上及子 (小5)	
洗面器お手玉投げ	奥秋勝也 (小6)	170点
漢字博士	小太刀吉美 (小5)	
道路標識博士	中村彩香 (小6)	